

グローバル人材育成センター埼玉(GGS)からのお知らせ

GGSは、日本人学生と外国人留学生を留学前から留学後までトータルでサポートしています。平成27年度は事業の幅を広げ、さらにパワーアップしていきます！

「埼玉発世界行き」奨学生を今年も募集します **4月20日募集開始!**

埼玉県では、未来の日本を担う、チャレンジ精神旺盛で世界で活躍出来る「グローバル人材」の育成を目指し、優秀で志の高い、海外への留学生に対し奨学金を給付しています。これまでの大学留学の2コースと高校生留学コースに加え、今年は長期留学が困難な理系学部の大学生を対象としたコースも新設されました。

詳しくはホームページをご確認ください。

埼玉発世界行き

検索

NACK5高校生海外スポーツ研修プログラム in 豪州クイーンズランド

4月20日募集開始!

協会では、この夏NACK5の全面的な協力を得て、豪州クイーンズランドに高校生をスポーツ奨学生として派遣します。ついては、スポーツが得意な県内在住の高校生を募集します。詳しい応募方法等はホームページをご覧ください！

NACK5スポーツ研修

検索

今年の夏も、国内留学!

埼玉県では、昨年度好評をいただいた「グローバルキャンプ埼玉」を今年も開催します。「グローバルキャンプ埼玉」は合宿形式の英語キャンプです。今の英語力を伸ばしたいあなた、内容はハードですが、きっとビジネスや留学の役に立つはずですよ。

日程 第1回 8月18日(火)~22日(土)
第2回 8月25日(火)~29日(土)
場所 埼玉県県民活動総合センター(伊奈町)
※詳細は決まり次第お知らせします。

埼玉県国際課

検索



埼玉の
グローバル
さん

埼玉県にゆかりがあり、グローバル社会で活躍している人を紹介するシリーズ『埼玉のグローバルさん』。今回はバングラデシュご出身で、国費留学生として「政策研究大学院大学」と「国際交流基金日本語国際センター」の連携プログラムである「日本語文化研究プログラム」の博士課程に在学しているダッカ大学日本語科助教授 アラム・モハメッド・アンサルルさんにインタビューしました。

日本語に恋して アラム・モハメッド・アンサルルさん

一日本に来られたきっかけは何ですか?

小学生の頃、教科書に広島での原爆投下のことが載っていて、そのタイトルが「ヒロシマがしゃべっている」でした。「広島は「町」なのに、なぜ「しゃべる」んだろう?」それがとても疑問で、日本に興味を持つようになりました。日本とバングラデシュの関係はとてもよく、ずっと日本には肯定的なイメージを持っていました。

大学では国際関係学を専攻しており、英語は必修科目で、第二外国語で日本語を選択していました。結婚前、妻とのデート中でもよく日本や日本語の話をしていたので、妻からは「あなたと結婚したら私は2番目の妻ね。1番は日本語だものね。」と言われたものです。

そんな中、私がとても尊敬しているダッカ大学の日本人講師から「あなたは教えることが好きだし、日本語教師が向いていると思うわ。」と言われ、日本語教師を目指すようになりました。その教師研修生として、2001年に初めてさいたま市にある「国際交流基金日本語国際センター」に来たのです。その後、研究や研修のために何回も来日していますが、毎回埼玉に宿泊しています。

一日本での生活でどんなことを感じましたか?

まずは「郷に入っては郷に従え」ということです。バングラデシュでは約束の時間に遅れたり、遅刻の連絡をしなかったりすることはよくあ

ります。私は幸いに自国で日本の「国際協力銀行」で働いた経験があり、日本人の「時間の感覚」「マナー」「約束を守ること」などについてある程度知っていたつもりでした。しかし、実際に来日して、当事者として日本人のことはもちろん、色々な機関や電車・バスなどが時間通りに動いていることには感動しました。それで、自分も日本の生活で負けないように毎日時計と競争しています。今日本では誰と待ち合わせをしても早めに行くので、相手の方に驚かれることもしばしばです。でも、自分と日本人の考え方や行動に様々な面で「異なり」があります。すべてを合わせているというわけではなく、自分のアイデンティティは持ちつつお互いに理解し、認め合う気持ちを大切にしています。

一埼玉の印象はいかがですか?

初めて埼玉に来た時から気に入っていました。東京より少し静かで落ち着きます。

埼玉には不思議な縁を感じるんです。私の誕生日は11月14日。埼玉県民の日ですよ。それと、昔広島でお世話になったホストファミリーが今は埼玉に住んでいて交流を続けることができてり...

今は家族とさいたま市に住んでいますし、妻や子どもたちのネットワークも含め、たくさんの思い出が詰まっています。

私たちは今年の秋にバングラデシュに戻りま

すが、機会があればあと100回埼玉に来たいです。埼玉は私たち家族のSecond Homeです。



一将来の夢、今後の活動についてお聞かせください。

バングラデシュに帰ったら、本業とは別に日本で暮らした経験を活かして、生活する上で本当に必要な日本語を生徒たちに教えたいと思っています。妻も民間学校で日本語を教えた経験があり、帰国後また教師を続けるつもりなので、彼女を全力でサポートします。そして、仲間の日本語教師たちと一緒に「勉強」「研修」「研究」などを積極的に頑張ります。

一日本やバングラデシュの若い人たちへメッセージをお願いします。

日本語や外国語といった言葉だけを勉強するのではなく、自分の周りにはどのような考え方、どのような文化を持った人たちがいるのか知ろうとすることが大切だと思います。生態学の言葉で言うと、社会は「人・モノ・コト」でつながっています。違う民族であっても自分から一歩踏み出して、自分の人生をより楽しいものにしてほしいと思っています。